

第七十三回帝國議會
衆議院

商法中改正法律案外二件委員會會議錄(速記)第八回

會議

昭和十三年三月十二日(土曜日)午前十時三十四分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野村 嘉六君

理事仲井間宗一君 理事宮崎 一君

理事紅露 昭君

一松 定吉君 內藤 正剛君

池田 清秋君 田村 秀吉君

山本 榮吉君 川副 隆君

江原 三郎君 金澤 正雄君

森 榮藏君 中野 治介君

崎山 嗣朝君 曾木 重貴君

永山 忠則君 佐竹 晴記君

菊地養之輔君

出席政府委員左ノ如シ

司法省民事局長 大森 洪太君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

○仲井間委員長代理 是カラ會議ヲ開キマ

ス——佐竹君

○佐竹委員 二百六條ノ關係ヲ御尋致シマス、實際アリマス問題ハ、名義書換ノ請求ヲ致シマシタ時ニ會社ガ正當ノ事由ナクシテ之ニ應ジナイ場合ガアリマス、隨分困リマシテ紛糾ヲ起シテ居リマスガ、此場合ニ對抗スル適當ナ規定ノ必要ハナイノデアリマスカ

○大森政府委員 御説ノ通り實際ニ於テ紛糾ヲ生ズル場合ハ屢アルコトデアリマス、デアリマスルカラ此案ニ付キマシテハ罰則ヲ設ケテ左様ナコトノナイヤウニ期シタ次第デアリマス、ソレハ第四百九十八條ノ第十一號デアリマス、正當ナ事由ナクシテ株券ノ名義書換ヲ爲サザル時ノ爲ニ此規定ヲ設ケタノデアリマス

○佐竹委員 然ラバ正當ノ事由ナクシテ名義書換ニ應ジナカッタ時ニハ、如何トモスル方法ハナイノデゴザイマセウカ、對抗スル途ハナイノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 名義書換ヲシナケレバ名義書換ニ依ル對抗ノ實ヲ舉ゲルコトノ出来ナイノハ、御説ノ通りデアリマス、御承知ノ

通り名義書換ノ請求ハ民事訴訟ノ手續トシテモ固ヨリ出来マスガ、左様ナ手續ニ依ルト云フコトハ煩瑣デモアリマスカラ、正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒絶スルコトノナイヤウニ、只今申上ゲマシタ罰則ヲ設ケタ次第デアリマス

○佐竹委員 現在ノ實例ヲ見テ見マス、控訴院並ニ地方裁判所等ニ於ケル判決ニ依レバ、其代表的ナモノニ付テ見レバ、大體正當ノ事由ナクシテ名義書換ノ請求ヲ拒否スル會社ハ、該讓渡ヲ否認スルコトヲ得ズトアリ、是ハ廣島控訴院民事一部昭和五年(二)二百八十六號、ソレカラ株式ノ讓渡人ヨリ名義書換請求アルニ拘ラズ、會社ハ其株主名義ヲ債權者タル銀行ニ委付シアリタル爲メ、名義書換手續ヲ到底履踐シ得ザル時ハ、會社ハ讓渡人ニ對抗スルコトヲ得ズ、是ハ大阪控訴院民事二部昭和五年(二)千五百五十三號外四件ノ判決、東京地方裁判所ニモ大體左様ナ判決ガアル、大審院判例ハドウモ私ノ調べマシタ所ニ依レバナイヤウデアリマス、實際ノ場合ニ隨分澤山ノ紛糾ヲ醸シテ居リ

付託議案
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
有限會社法案(政府提出、貴族院送付)

マシテ、而モ現在ノ解釋ニ於テハ正當ノ事由ナクシテ名義書換ノ請求ヲ拒否シテモ其拒否ハ認メラレナイ、詰リ對抗スルコトガ出来ルト云フコトガ現在判例ノ一般の解釋ノヤウデアリマス、所ガ今ノ御説ニ依リマスルト、單ナル罰則ヲ設ケタダケデ、之ヲ履行シナクテモ之ニ對抗スル途ガナイ、斯ウ申シマスルト、殆ド現在實際ニ行ハレテ居ル裁判上ノ解釋ト全ク相反スルヤウナ御解釋ヲナサレテ居ルヤウデアリマスガ、私共カラ言ハシメマスレバ、此判例等ニ依ッテ苦心ヲ致シテ居リマス、條文ニ何ニモナイケレドモ、正當ノ事由ナクシテナドト云フ文字ヲ引張ッテ來テ、サウシテ斯ウシタ不合理ヲ救フベク苦心シテ居リマス、此正當ノ事由ナクシテナドト云フ文字ハ寧ろ法文ノ中ニ採入レテ、サウシテ斯ウ云フ場合ニハ會社ニ對シテ對抗スルコトガ出来ルト云ツタヤウナ工合ニマデ進ンデは御規定ナサイマセスト、特別ノ關係ニ於テ會社ガ名義書換ノ請求ヲシテイヤオ前ノハドウモナラヌト拒絶サレテ如何トモスルコトガ出来ナ

イ、之ヲ救フ途ガナイヤウニナルノデアリマス、今一應此點ノ解釋ヲ承ッテ置キタイト思ヒマス

○大森政府委員 會社ガ正當ノ事由ナクシテ名義書換ヲ拒ミマシタ場合ニ會社ト名義書換請求人ノ間ニ於テ對抗關係ガアルカナイカト云フコトハ解釋上ノ問題デアリマシテ、私ノ先程申シマシタノハ其點ニ對シテ此案デハ特殊ノ規定ヲ以テ臨ンデ居ナイト云フ趣旨デ申述ベタノデアリマス、デアリマスカラ、其點ノ解釋ハ現行法ノ下ニ於テモ、本案ノ下ニ於テモ當然起ル譯デアリマス、只今御示シニナリマシタヤウナ裁判例モアリマス、尙ホ私ノ記憶シテ居ル範圍内ニ於キマシテハ、只今舉ゲラレタヤウナ趣旨ノ裁判例ガ大審院ニモアツタヤウニ存ジテ居リマス、デアリマスルカラ今日判例カラ申シマス、只今御述べニナツタ通りニナルト存ジマスルガ、此判例ニ對シテハ學說トシテ非難モ相當アルヤウニモ承ッテ居リマス、デアリマスルカラ是等ハ裁判例ノ解釋ニ任スベキモノデアッテ、法律ノ規定ヲ以テ茲ニ臨ムコトヲ避ケタ方ガ宜イト云フ考ヲ持ツタノデアリマス、今日ノ裁判例ノ大體ノ趣向トシテハ、御説ノ通りデアルト云フコトハ、事實上申述べラレルノデアリマス

○佐竹委員 ソレデハ其點ニ満足致シマス、唯斯ウ云フ場合ガアリマス、會社ガ其株式名義ノ書換請求ヲ一應受理致シマス、受理致シマスガ、事務員ガ粗漏ノ爲ニ一向名義ノ變更ヲ致シマセヌ、或ハ會社ノ内部ニ於ケル紛擾ノ爲ニ故意ニ事務員ガ名義書換ヲ致シマセヌ、受理致シテ置キナガラ書換ヲ致シマセヌ、此爲ニ株主總會ニ出席致シテ見マス、マダ名簿ニ登錄サレテ居ラナイト云ツタヤウナコトデ、入場ヲ拒絕サレルト云ツタヤウナ場合ハ、ヨクアッテ困ルノデゴザイマスガ、斯ウ云フ場合ハ如何相成ルモノデゴザイマセウカ、承リタイト思ヒマス

○大森政府委員 具體的ノ事實ニ對シマシテ、ソレガ法律上斯様ニナルト云フヤウナコトヲ申述べルコトハ、成ルベクハ御遠慮申上ゲタイノデアリマス、併シ只今ノヤウナ御設例デハ、ヤハリ正當ノ事由ナクシテ名義書換ヲ拒ンダト云フコトニ該當スルノデハナイカト私ハ感じニ於テハ存ジテ居リマス

○佐竹委員 ソレデハ其點モソレデ宜シウゴザイマス、二百十條一項第三號ノ實例ヲ一二御示シテ願ヒタイト思ヒマス

○大森政府委員 第二百十條第三號ノ場合デアリマスルガ、吾々ノ考ヘテ居リマスル

適例トモ申シマスルヤウナモノハ、會社ガ權利ノ實行ヲ爲スニ當リマシテ、代物辨濟トシテ受取ラナケレバナラナイト云フヤウナ場合、即チ債務者ノ方ニ他ノ財産ガナクテ債權者ノ方ノ株式ダケヲ持ッテ居ル、斯ウ云フ場合ニソレヲ取ラナケレバアチラノ債權ノ満足ガ得ラレマセヌ、左様ナ場合等ヲ考ヘタノデアリマス

○佐竹委員 二百十四條三項ノ關係ヲ承リタイ、此規定ニゴザイマス「株主ニ對シ不足額ノ辨濟ヲ請求シ若シ從前ノ株主ガ二週間内ニ之ヲ辨濟セザルトキハ讓渡人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得」トアリマス、此從前ノ株主ト云フ中ニハ、白紙委任狀ニ依ル讓渡ノ場合ノ中間ノ取得者ヲ包含スルデゴザイマセウカ、此疑問ガ二百六條ノ二項ノ手續ヲ經ナケレバ、詰リ株券ノ裏書ニ依ル株式移轉デナイ場合ニ於キマシテハ、其ノ氏名ヲ株券ニ記載シナケレバ會社若クハ第三者ニ對抗スルコトガ出來ナイ、此手續ヲ經ナイデ白紙委任狀ニ依リマス株式ヲ取得致シマシタ者ハ、此條文ニアリマス如ク對抗スルコトガ出來ナイト云フコトニナツテ居リマス、併シ會社カラ對抗スルコトハ出來ルノデアアル、サウスレバ、會社ハ白紙委任狀附デ一度持ッテ居ッタト云フコ

トヲ認メル者ニ對シテ、ヤハリ二百十四條三項ノ規定ニ基キマシテ、從前株主トシテドン／＼白紙委任狀附轉々ヲ受ケテ取得者ニ對シマシテモ、尙ホ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトガ出來ルカ、斯ウ云フノデアリマス

○大森政府委員 御説ノ通りデアリマス

○佐竹委員 二百十六條關係ヲ承リタイ、第二百十四條第一項ノ規定ニ依リ株式ノ競賣ヲ爲シタルモ其ノ結果ヲ得ザルトキハ會社ハ資本減少ノ規定ニ從ヒテ其ノ株式ヲ消却シタトキ二百十四條二項ノ從前株主ニ對スル不足額ノ辨濟請求及ビ讓渡人ニ對スル辨濟請求權ハ消滅スルデゴザイマセウカ

○大森政府委員 此第二百十六條ノ後段ニ於キマシテ、第二百十四條第三項ノ規定ヲ準用シテ居リマス、之ニ依リマシテ只今ノ御考トハ正反對ニ是等ニ請求ヲスルト云フコトヲ、此規定デ明ニシタ譯デアリマス

○佐竹委員 モウ一點ダケ承リタイト思ヒマス、過日此點ヲ承リマシタノデゴザイマスケレドモ、ドウモ再質問等デ時間ガ取レルコトヲ周圍ノ方ガ大分御意見ガアルヤウデ遠慮致シマシタケレドモ、尙ホ私、後デ腑ニ落チマセヌデシタノデ、モウ一點承リタイト思ヒマス、二百二十條ノ不足額ノ償還

請求、是ト二百十七條ノ關係ヲ承リタイト

思ヒマス「前三條ノ規定ハ會社ガ損害賠償

及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲ス

コトヲ妨グズ」此規定トノ關係ニ於テ、違

約金ヲ支拂ヒマシタ時ニ其違約金ノ償還請

求ガ出來ルデゴザイマセウカ、過日ノ御尋

ノ際ニ於キマシテハ、單ニ不足額ト之ニ對

スル遅延利息ノ請求ガ出來ルト云フコトヲ

承リマシタ譯デアリマス、所ガ二百十七條

ノ場合ニ於テハ定款ヲ以テ定メタル違約金

ノ請求ヲセラレタ時ニ、之ヲ拂ハナクテハ

ナリマセス、拂ツタガ其償還請求ガ出來ナイ

ト云フコトニナリマス、一番最初ニ請求

セラレタ一部ノ株主ハ、大變損害ヲ被ルト

云フコトニ相成ルデハナイカ、斯ウ存ジマ

スガ如何デアリマス

○大森政府委員 結果ハ御説ノ通りニナリ

マスケレドモ、此償還ノ場合ニ最初ニ支拂

ヒマシタモノヲ、完全ニ其損失ヲ填補スル

ト云フコトモ如何デアラウカト存ジタノデ

アリマシテ、償還ヲ故ラニ不足額ノ限度ニ

止メタ次第デアリマス

○佐竹委員 私ハ宜シウゴザイマス

○仲井間委員長代理 ソレデハ株式ノ方ハ

是デ濟マシマシテ、第三節會社ノ機關、其

中ノ第一款ノ株主總會ニ付テ政府委員ノ御

説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○大森政府委員 第三節會社ノ機關ノ中デ

御指定ニ依リマシテ第一款株主總會ニ付テ

順次改正ノ點ヲ申述ベテ參リタイト存ズル

ノデアリマス、先ヅ第二百三十二條ノ末項

デアリマス、御承知ノ通りニ第二百三十二

條ハ招集手續ノ規定デアリマス、此招集手

續ハ議決權ナキ株主ニ付テハ之ヲ適用シナ

イト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、此

案ニ於キマシテハ第二百四十二條ニ於キマ

シテ、株式ノ種類ノ一ツノ中デ議決權ナキ

株式ヲ認メルコトニ致シタノデアリマス、

其點ハ後ニ第二百四十二條ニ於テ申述ベマ

スルガ、兎ニ角斯様ニ議決權ナキ株主ヲ認

メマシタ以上ハ、其株主ニ對シテハ總會招

集ノ必要ガナイノデアリマスカラ、此第二

百三十二條末項ノ規定ヲ設ケタノデアリマ

ス、次ニ第二百三十三條デアリマス、是ハ

御承知ノ通りニ招集ノ場所ニ關スル規定デ

アリマス、在來現行法ノ下ニ於キマシテハ、

招集ノ場所ニ付テ何等ノ規定ガナカッタモ

ノデアリマスカラ、往々ニシテ變ナ事例ヲ

生ジタノデアリマス、即チ會社本店ノ所在

地デナケレバナラナイト云フ一方ノ學説

ト、他方ニ何處デモ宜イト云フヤウナ學説

モ行ハレマシテ、ソレガ爲ニ故意ニ株主ノ

集レナイヤウナ處ヲ指定スルヤウナ例モ、

アツクヤウニ存ズルノデアリマス、左様

ナ時弊ニ鑑ミマシテ、本案デハ定款ニ別段

ノ定メガアレバソレニ從フコトハ勿論デア

リマスケレドモ、サモナケレバ本店ノ所

在地カ、然ラズンバ之ニ隣接スル地ノ中デ

開カナケレバナラヌト云フコトニ致シマシ

タ、即チ本店ノ所在地ト云フダケデハ狹キニ

失シマスルガ、然ラバ之ヲドウ云フ程度ニ

擴張シタラ宜イカ、此點ニ相當考慮ヲ拂ヒ

マシテ、隣接地内デモ宜シイト云フコトニ

致シタノデアリマス、次ニ第二百三十七條

ノ末項デアリマス、第二百三十七條ハ御承

知ノ少數株主權ノ行使トシテノ總會招集ニ

關スル規定デアリマス、此招集ノ費用ノ負

擔者ニ付テ、從來何等規定ガナカッタノデア

リマス、是モ實際ノ運用上、兎角ノ紛爭ヲ

生ジタノデアリマス、隨デ此案ニ於キマシ

テハ、總會自身デ以テ招集ノ費用ヲ招集シ

タル株主ノ負擔トスルコトヲ定メテ宜シイ

ト云フ途ヲ拓イタノデアリマス、次ニ第二

百四十條デアリマス、是亦現行規定ニ缺ケテ

居ツタモノデアリマスカラ、實際ニ不都合

ヲ生ジタノデアリマス、其缺陷ヲ補充シタ

モノデアリマス、前條ノ第四項ハ、御承知

ノ特別ノ利害關係ノアル者ハ議決權ヲ持タ

ナイト云フ規定デアリマス、是ハ現行法ト

同様デアリマス、然ルニ若シ斯様ナ特別ノ

利害關係ヲ持ツ株主ノ數ガ澤山アルト云フ

コトニナリマス、其儘ニシテ置キマスル

ト、遂ニ決議ヲ爲ス能ハザル結果ヲ招來ス

ルノデアリマス、デアリマスカラ第二百

四十條ニ其點ノ豫防策ヲ致シマシテ、特別

ノ利害關係アルガ爲ニ議決權ヲ行使スルコ

トヲ得ナイ其議決權ノ數ハ、第二百三十九

條第一項ノ議決權、即チ基本計算ノ標準タ

ル議決權ノ數ニ算入シナイト云フコトヲ明

ニシタノデアリマス、ソレカラ第二百四十

一條デアリマスカラ、其第一項ノ後段ハ新

設ノ規定デアリマス、御承知ノ通りニ現行

法ハ一株一箇ノ議決權ト云フコトヲ原則ト

致シマシテ、定款デ十一株以上ヲ有スル株

主ノ議決權ヲ制限スルコトガ出來ルヤウニ

ナツテ居リマス、是ハ其儘踏襲ヲ致シマシタ、

其外ニ定款デ以テ株式ノ讓受ヲ株主名簿ニ

記載シタル後六箇月ヲ超エナイ株主ニハ議

決權ガナイモノト云フ定メヲ爲シ得ル途ヲ

開イタノデアリマス、即チ總會間近ニ俄ニ

株主ニナツテ、ソレガ會社ヲ攪亂スルト云

フヤウナ事例ガ是マデ必シモ少クナカッタ

ノデアリマス、デアリマスカラ、定款デ

或ル一定期間引續キ株主デアアル者デナケレ

バ、議決權ガナイト云フ定メヲ爲スノ餘地ヲ茲デ是認シタノデアリマス、第二項モ新設デアリマシテ、是亦當然ノコトデアリマスルケレドモ、先程モ御指摘ニナリマシタヤウニ、本案デハ會社ガ自己ノ株式ヲ持チ得ル場合ヲ明確ニ致シマシタカラ、ソレニ對應シテ斯様ナ規定ヲ設ケタ次第デアリマス、第二百四十二條デアリマスルガ、是ハヤハリ新設ノ規定デアリマス、先程モ申述ベマシタ通りニ、此案デハ異種類ノ株式ヲ廣ク設ケルト云フコトヲ是認シタノデアリマス、ソレハ御承知ノ第二百二十二條デアリマス、ヤハリ其趣旨ニ從ヒマシテ議決權ナキ株式ト云フモノヲ認メテ宜イト云フコトニ致シタノデアリマス、御承知ノ「ノ・ン・ヴォーチング」ノ株式デアリマス、是ハ實際ニ於テ非常ニ歡迎セラレテ居ルノデアリマス、即チ或ル會社ガ他ノ會社ニ投資ショウ、即チ株主ニナラウト云フ場合ニ、單ニ投資ヲシテ財産上其事業ヲ助ケルコトハスルケレドモ、決シテ其事業ノ管理ニロヲ入レタクハナイノデアリマス、左様ナコトヲスレバ痛クナイ腹ヲ探グラレル虞ガアル、自分ノ方デハ決シテ事業ノ管理ニロヲ出サナイ、唯投資ヲスル、ソレニ依ッテ利益ノ配當ヲ受ケレバ宜イト云フコトモ隨分アリ得ルヤウニ承知ヲスルノデアリマス、此點ハ相當以前カラ當業者カラ強キ要求ガアリマシタ、又御承知ノ通りニ外國ノ實例ニ於キマシテ、是等ガ相當ノ效果ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスカラ、我ガ日本ノ商法ニ於テ之ヲ排斥スル理由ガナイト考ヘタノデアリマス、儲テ左様ナ議決權ノナイ株式ヲ認メマシタ以上ハ定款デ以テ是等ノ株主ニ付テ、所謂少數株主權ノ或ルモノガナイト定メテモ妨ガナイト云フコトヲ第一項ノ後段ニ置キマシテ、茲ニ準用ニナッテ居リマス條文ハ少數株主權ノ行使ニ關スル規定デアリマス、尙申上ゲル迄モナク、議決權ナキ株式ヲ認メマシテモ、全部ノ株式ガ其議決權ガナイト云フコトハ、是ハ固ヨリ想像ガ出來ナイノデアリマス、會社ノ總テノ株式ノ中ノ或ル部分ダケニ、ソレヲ止メテ置カナケレバナラナイコトハ言フ迄モナイコトデアリマス、其關係ヲ第二項デ明ニシマシテ、資本ノ四分ノ一ノ限度内ニ於テハ議決權ナキ株式ヲ設ケテモ宜シイト云フコトニ致シマシタ、次ハ第二百四十三條デアリマス、現行規定ニ於キマシテハ總會ノ續行ナリ、延期ニ付テ全ク規定ガナカッタノデアリマス、ソレガ爲ニ實際ニ於テ屢、紛議ヲ生ジマシタルコトハ御承知ノ通りデアリマス、詰リ延期又ハ續行ヲシマスル場合ニ何等規定ガナイモノデアリマスカラ、此第二回ノ期日ガヤハリ獨立シタル一個ノ株主總會デアッテ、從テ二週間以上ノ例ノ期間ヲ定メテ通知ヲヤリ直サナケレバナラスノデアルト云フ意見ガ、事實ニ於テ行ハレテ居リマシタ、左様ナ必要ハ毛頭ナイノデアリマシテ、此場合ニ於テハ第二百三十二條ノ招集手續ハ必要ガナイト云フコトヲ、茲ニ明ニシタノデアリマス、次ニ第二百四十五條デアリマス、是モ新設ノ規定デアリマス、包括的説明ノ際ニ申述ベマシタ通り現行規定、特別決議ヲ要スルコトヲ明ニシタ場合ハ二三アリマスルケレドモ、マダソレガ漏レテ居ルノデアリマス、即チ當然實質カラ申シマスレバ、特別決議ヲ要スベキ重大ナル事項デアリナガラ、何等規定ガナイモノデアリマスカラ、普通決議デモ宜シイ、甚シキニ至リマシテハ取締役ノ一存デモ出來ルノデアルト云フヤウナ解釋ガ行ハレテ居リマシテ、左様ナコトハ實際ニ於テ極メテ紛議ヲ生ズル所以デアリマスルカラ、特別決議ヲ必要トスル事由ヲ更ニ現行法以外ニ茲ニ掲ゲタ次第デアリマス、即チ其第一號ハ「營業ノ全部又ハ一部ノ讓渡」ニガ「營業全部ノ賃貸、其ノ經營ノ委任、他人ト營業上ノ損益全部ヲ共通ニスル契約其ノ他之ニ準ズル契約ノ締結、變更又ハ解約」ソレカラ三ガ「他ノ會社ノ營業全部ノ讓受」營業ノ讓渡ナラバ是ハナクスル方デアリマスルカラ、一部ノ讓渡ニ付テモ特別決議ヲ必要ト致シマスルガ、讓受ケル方ハ他ノ會社ノ營業全部ヲ讓受ケル場合ダケデ宜カラウト存ジタノデアリマス、ソレカラ四ニ條文ヲ引イテ居リマスルガ、是ハ任務懈怠ノ損害賠償責任デアリマス、即チ任務懈怠ニ因ル取締役又ハ監査役ノ責任ヲ免除スル、是亦特別決議ニ依ラナケレバ免除ガ出來ナイト云フコトヲ明ニ致シマシタ、第二項デアリマスルガ、第二百六十八條ト第二百七十九條ヲ援用シテ居リマス、是ハ少數株主權ノ行使トシテ、少數株主カラ訴ヲ提起スル場合デアリマス、即チ取締役監査役ノ責任ヲ免除致シマシタ場合ニ、少數株主ガ之ヲ不當トシテ訴ノ提起ガ出來ルト云フコトヲ明ニ致シタ次第デアリマス、次ニ第二百四十六條ハ、ヤハリ新設ノ規定デアリマスルガ、是ハ前回佐竹委員カラモ御質問ニ相成リマシタ事後設立ニ關スル規定デアリマス、事後設立ニ關スル規定ガ今日現在ノ法律ニ拔ケテ居ルコトハ、會社ガ現物出資ヲ潛ルト云フヤウナ脱法的手段ニ乗ゼラレルコトニナルノデアリマシテ、決シ

テ會社ノ基礎ノ確實ヲ期スル所以デハナイ
ノデアリマス、隨テ茲ニソレヲ新タニ設ケ
タ次第デアリマス、次ハ第二百四十七條以
下、是ハ總會ノ決議ノ所謂無効ノ訴ニ付テノ
現行法ノ規定ヲ補完シタモノデアリマス、
先ヅ其名前デアリマスルガ、名前ノ如キハド
ウデモ宜イコトデハアルカモ知レマセヌケ
レドモ、現行法デハ決議無効ノ訴トナッテ
居リマス、併シ御承知ノ通りニ是ハ當然無
效ト云フノデハナイノデ、判決ニ依ッテ無効
トナルノデアリマス、デアリマスカラ取消
ト言ッタ方が正確デアリマスルカラ、此案デ
ハ取消ト云フ名前ヲ用ヒマシタ、ツレカラ
尙ホ能ク問題ニナツタコトデアリマスルガ、
特別決議デ定足數ヲ缺キマシタ場合ニ、ソ
レガ當然ノ無効デアアルカ、或ハ決議取消ノ
訴ヲ起シ得ルモノデアアルカ、決議取消ノ判
決ガナケレバ有效ニ續クモノデアアルカト云
フコトノ疑問ガアリマシタ、ソレ等ノコト
ヲ解決致シマスルガ爲ニ、此案ノ第二百四
十七條ノ第一項ニ於キマシテ總會招集ノ手
續又ハ決議ノ方法ガ法令若ハ定款ニ違反シ
又ハ著シク不公正ナルトキハ「ト云フコトニ
致シマシタ、隨テ只今申上ゲマシタヤウナ
特別決議デ定足數ガ缺ケテ居ッタト云フヤ
ウナ場合ハ、當然ノ無効デハナイノデアッ

テ、此決議取消ノ事由ニナルダケデアリマ
ス、又著シク不公正ト申シマスルノハ、是
亦往々ニシテ生ズル事例デアリマスルガ、招
集ハシテ置イタケレドモ株主ガ到底集レナ
イヤウナ場所、例ヘバソレハ必シモ遠隔ノ
所ト云フ意味デハアリマセヌ、場所ハ近イ
所デアリマシテモ、到底株主ガ集マルニ適
シナイヤウナ所ニソレヲ開キ、或ハ又株主
ヲ迎ヘルニ付テ甚シク不公正ナ設備ヲ致シ
マシテ、要スルニ形式上開イタケレドモ、
實質上到底開ケナイヤウナヤリロラスルト
云フ例ガナクハナイノデアリマス、ソレ等
ノ場合ヲ指シマシテ著シク不公正ト云フコ
トニシテ、之ヲ取消ノ事由ニシタノデアリ
マス、第二項ニ準用シテ居リマスル條文ハ、
第八十八條ハ裁判所ノ專屬管轄ヲ決メタ規
定デアリマス、ソレカラ第五百五條第三項、
第四項、第九百九條、是ハ前申上ゲマシタ合
併無効ニ付テノ手續ニ關スル規定デアリマ
ス、之ヲ準用シタ次第デアリマス、次ニ第
二百五十一條デアリマスルガ、是ハ合併無
効ノ訴ニ付テ此案ノ第七百七條ノ際御説明申
上ゲマシタ、ソレト同趣旨ノ規定デアリマ
シテ、ヤハリ其際ニ申上ゲマシタヤウニ、
運用上必要ナル注意ハ要リマスルケレドモ、
此運用ニシテ的確ナラバ、餘程效果ヲ擧ゲ

ル良イ規定デハナイカト存ジテ居ル次第デ
アリマス、即チ此案ノ第二百五十一條ニ依
リマスルト、決議取消ノ訴ノ提起ガアリマ
シタ場合ニ、其決議ガ儘ニ取消ノ事由ニハ
該當シテ居リマスルケレドモ、併シ決議ノ
内容ヲ能ク見、又會社ノ現況其他一切ノ事
情ヲ斟酌スレバ、其決議ヲ其儘有效トシテ
存續セシムル方が、會社ノ爲ニモ株主ノ爲
ニモ一般第三者ノ爲ニモ結構デアアル、斯ウ
云フヤウニ裁判所ガ認ムルナラバ、其取消
ノ請求ヲ棄却シテ宜シイ、斯様ナ途ヲ新ニ
開イタノデアリマス、ソレカラ第二百五十
二條モ新設ノ規定デアリマス、是ハ所謂決
議取消ノ場合デハナイノデアリマシテ、決
議ガ當然無効ナ場合デアリマス、ソレデア
リマスカラ所謂民事訴訟法上ノ確認ノ訴ニ
該當スルモノデアリマス、之ニ付キマシテ
ハ現行法ニ何等規定ガナカッタノデアリマ
スルカラ、普通ノ民事訴訟法上ノ確認ノ訴
トシテ取扱ハレテ居リマシタ、左様ナ場合
ニ最モ弊害ノ生ジマスルノハ、御承知ノ通り
民事訴訟法上ノ通常ノ訴デアリマスルカラ、
其判決ガ當事者間ニ個々ニ發生ラシテ、即
チ第三者ニ廣ク及ブ效力ヲ持タナカッタノ
デアリマスルカラ、甲ガ斯ル訴ヲ提起致シ
マシテ勝訴ノ判決ヲ得マシテモ、會社ノ其

決議ハ甲トノ關係ニ於テノミ無効ト云フコ
トガ確認サレタダケデアッテ、其訴ノ當事者
デナイ乙丙丁其他ノ第三者ニ對スル關係ニ
於テハ無効ニナッテ居ナイ、斯様ナコトニ
相成ルノデアリマス、併シ一本ノ決議ガ甲
ニ向ッテハ無効ニナリ、乙丙丁ニ向ッテハ有
效ニ續イテ居ルト云フコトハ、少クトモ會
社ノ決議ノ如キモノニ付テハ不都合デアリ
マスルカラ、左様ナコトノナイヤウニ、即
チ其判決ノ效果ヲ一樣ニスルガ爲ニ、合併
無効ノ訴ニ付テ申述ベマシタ所ノ規定ヲ之
ニ準用シタノデアリマス、尙ホ第八十八條
ト云フノハ申上ゲルマデモナク裁判管轄ニ
付テノ規定デアリマス、次ニ第二百五十
三條モ新設ノ規定デアリマス、是ハ株
主ガ特別ノ利害關係アルノ故ヲ以テ、議
決權ヲ行使スルコトヲ得ナカッタ場合ニ
付テノ規定デアリマス、特別ノ利害關係
ガナイモノデアリマスカラ、其株主ハ固ヨ
リ議決權ヲ行使致シマセヌデシタ、併シ
其結果出來マシタ所ノ決議ガ甚シク不
當デアリマシテ、若シ特別ノ利害關係
アルガ爲ニ議決權ノ行使ヲシナカッタ所ノ
株主ガ、議決權ノ行使ヲ爲シ得テ、之ヲ爲シ
タナラバ是ハ當然止メ得ベカリシモノデ
アッタ、詰リ自分達ガ手ヲ引イテ居ルモノダ

カラ、アトノ者デ勝手ナ決議ヲシタ、其決議ガ甚シク不當デアツタ、斯ウ云フ場合ニ右議決權ノ行使ガ出來ナカッタ所ノ株主ハ、訴ヲ以テ其決議ヲ取消シテ貰フ、又變更シテ貰フ、即チ其決議ノ是正ヲ請求スルノ途ヲ玆ニ開イタノデアリマス、第二項ニ準用ニナツテ居リマスル條文ハ、屢、申上ゲマシタ所ノ條文デアリマス

○佐竹委員 二百四十三條ノ關係ヲ承リタイト思ヒマス、總會ニ於テ延期又ハ續行ノ決議ヲ致シマシタ場合ニハ、二百三十二條ノ規定ヲ適用シナイトアリマスノデ、一切缺席者ニ對シテ次回ノ期日ヲ通知スルコトヲ要シナイト解スベキモノデゴザイマセウカ

○大森政府委員 缺席者ニ對シマシテハ、決議ノ内容ヲ知ラシメルコトガ相當デアリマセウ、併シ之ヲ知ラサナカッタガ爲ニ、其決議ガ當然無効デアルト云フ積リデナク、此規定ヲ拵ヘタ次第デアリマス

○佐竹委員 此法律ノ精神ハ結局二百三十二條ニ規定致シテ居リマス延期又ハ續行等ノ場合ニ於テ、二百三十二條ニ規定シテ居リマスヤウナ二週間前ニトカ、或ハ會議ノ目的タル事項ヲ記載シテトカ、斯ウシタ要件ヲ具備致シマシタ通知ヲスルコトハ必要

デナイト云フ趣旨ノヤウニモ聞エマスガ、併シ二百三十二條ヲ適用セズトゴザイマスノデ、モウ何ニモ通知ヲ要シナイト解釋スルノガ、文字解釋ヨリ致シマスナラバ穩當デハナイカト思ヒマス、所ガ二百四十三條ノ場合ニ延期又ハ續行ガ圓滿裡ニ行ハレマス場合ニハ宜イノデスガ、此延期又ハ續行ヲ必要トスルトカ云フ場合ニハ、多ク紛議ヲ醸シマシテ、到底當日其審議ヲ續行スルコトガ出來ナイト云フノデ、延期シ或ハ更ニ續行スル場合ガ多イデハナイカト思ハレマス、此場合ニ於キマシテ、出席ヲ致シテ居リマセヌ株主ガ、之ヲ知リマシタナラバ、サウ云フ紛議ガ起ルトスルナラバ、自分達モ出席ヲシテ意見モ述ベタイ、斯ウモシタイ、ア、モシタイト云フコトヲ考ヘルノハ當然デアリマス、唯最初豫定致シマシタ如ク、圓滿ニ總會ガ開カレテ、圓滿ニ議事ガ豫定通り進行スルナラバ、イヤモウ今日ハ出席セヌデモ宜カラウト考ヘテ居リマシタ際デモ、サウ云フ事態ヲ惹起致シマシタ際ハ、自分達モ是非トモ是ハ出席シテ意見モ述ベタイト云フ場合ハアリ得ルト思フノデアリマス、斯ウシタ株主ヲ全然保護致シマセズニ、全然之ニ通知シナイデ、延期又ハ續行ノ場合ニハ、ドン／＼前ニ出席致シテ

居リマシタ者ダケデ、次ノ會議ガ開カレルト云フコトニナリマス、最初特別ナ事由デ出席シ得ナカッタ者、又只今申上ゲマサルガ如ク、圓滿ニ行クナラバ出席セヌデモ宜シイト考ヘテ居ッタ人共ノ利益ト云フモノ一切無視スル虞レガアルデハナイカト考ヘマスガ、如何デゴザイマスカ

○大森政府委員 二百四十三條ノ場合ハ延期又ハ續行ノ決議アリシ場合デアリマス、延期又ハ續行ニ付テ種々紛議ノアリマスルコトハ、私共モ承知致シテ居ルノデゴザイマス、延期又ハ續行ノ決議ガアリマスルナラバ、其決議ニ依リマシテ、時日場所ヲ定メマスノデアリマスカラ、態、二百三十二條ノ手續ヲ取ルマデモナイト考ヘタ次第デアリマス

○佐竹委員 私ノ御尋セント致シマスノハ、非常ニ紛議ヲ醸シタ、併シ今日ヤラスデモ、誰カ適當ナ人ニ調停ヲ頼マウデハナイカ、或ハ今日押切ルト云フコトハ宜クナイカラ延期シヨウデヤナイカ、或ハ續行シヨウデヤナイカト云フ決議ハ、其延期又ハ續行ニ付テハ圓滿ニ決議サレマシテモ、其目的タル問題ニ付テハ非常ニ紛議ヲ醸シテ居ル場合ガ往々アリ得ルノデアリマス、斯ウシタ場合ニハ、偶、出席ヲ致シテ居リマ

セヌ株主デアリマシテモ、一應次回ノ期日ダケハ通知シテヤル、是ハ私ハ當然デハナイカト思ヒマス、裁判上ノ手續ニ致シマシテモ、最初第一回ニ出席ヲ致シマセヌ者ハ、其次回ニハモウ一向通知ヲスルコトヲ要シナイト云フコトニナリマス、非常ニ不安デゴザイマス、裁判上ノ手續デモ第一回デ済ンデシマフ場合ニハ宜シウゴザイマスケレドモ、濟マナイ場合ニハ必ズ第二回第三回ノ期日ヲ通知致シマシテ、相當其權利ヲ行使スル機會ヲ與ヘルト云フコトハ、有エタル法制ノ上ニ現レテ居ル所ト考ヘマスガ、如何デアリマスカ

○大森政府委員 意見ニ涉ルヤウデ恐縮デアリマスガ、成程最モ確實ヲ期スルナラバ、御趣旨ノ通りニスルノガ結構デアリマセウ、併シ此場合ニ便宜ノ點モ閉却ハ出來ナイノデアリマス、總會ノ決議ガ成ベク滑カニ出來ルヤウニト云フ點モ、考慮スベキ問題デハナイカト思フノデアリマス、御承知ノヤウニ延期續行ノ際ニ、何時モ重ネテ此招集手續ヲ、踐マナケレバナラナイト云フコトガ、是マデ現レマシタ多數ノ實例ニ於テハ、確ニ煩瑣ニ堪ヘナカッタノデアリマス、其實際上ノ見地カラ、私共ハ此改正ヲ致シタノデアリマシテ、別ニ理論上是ガ正確デ

アルトカ何トカ云フコトヲ、決シテ固執スル意味デハナイノデアリマス

○佐竹委員 此點ニ付テハ尙ホ私ハ意見モゴザイマスガ、長クナリマスカラ、此點ハ是デオ終ヒニシテ置キマス、今一點二百三十九條第三項但書ノ規定ハ強行規定デゴザイマセウカ、即チ定款ヲ以テ是ト異ナル規定ヲスルコトハ差支ナイモノト承リマシテ宜シウゴザイマス

○大森政府委員 全ク御説ノ通りデアリマス、但シ學説上ト致シマシテ、定款ノ規定デ以テ是ヨリ低キ要件ヲ定メルコトハ無効デアルト云フ説モ相當有力デアリマス、即チ其説ニ從ヒマスレバ、此規定ハ必要條件ノ最小限度ヲ決メタモノデアツテ、是ヨリ強クスルコトハ幾ラ強クシテモ宜イノダ、斯ウ云フコトガ言ハレテ居リマス、是モ相當有力ナ説デハナイカト考ヘテ居リマス

○佐竹委員 宜シウゴザイマス

○菊地委員 唯一點御聴キシタイノデアリマス、二百三十一條デゴザイマスガ、「總會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外取締役之ヲ招集ス」此規定ハ定款ニ別段ノ規定アル場合ニハ、其定款ノ規定ノ效力ガ生ジマセウカ、其點ヲ承リタイノデアリマス

○大森政府委員 是ハ強行規定ノ積リデア

リマシテ、本法ノ別段ノ定ハ御承知ノ通りニ監査役ガ招集致シマスル場合、又少數株主ガ招集シマスル場合、ソレ等ヲ指シテ居ルノデアリマシテ、ソレ等以前ノ場合ハ、取締役ガ招集スルコト云フコトハ、法律ノ必要トシテ命ズル所ト存ジテ居ルノデアリマス

○一松委員 二百四十四條ノ規定デアリマスガ、詰リ此規定ハ、後日過般ノ總會ノ席上ニ於テ行ハレタ議事ハ、斯ク／＼ノコトデアツト云フコトノ證明ノ用ニ供スベキ必要上、議事録ヲ作成シテ後日ニ備ヘルモノデアラウト思フノデアリマス、然ルニ會社ノ内部ニ紛擾ヲ醸シテ居リマスルヤウナ時ニ、若クハ其日ノ議事ノ内容ニ付テ、議長、取締役、監査役等ノ間ニ於テ紛議ヲ生ジテ居ルヤウナ場合ニ於テ、往々ニシテ議事録ノ署名ト云フコトヲ拒ミ合ツテ、サウシテ議事ガ如何ナルコトノ議決ガアツタカト云フコトヲ、後日ニ遺スコトノ出來ナイヤウナ場合ガアル、サウ云フ時ニハ、折角此二百四十四條ニ於テ議事録ヲ作成シテ、後日ニ遺サナケバナラスト云フ法ノ精神ガ、蹂躪セラレタコトニナルノデアリマスルバカリデナク、其議事ガ將來權利義務ニ關係致シマシテ、法廷上ノ争ニナルヤウナ場合

ニ、即チ證明スベキ議事録ガナイト云フヤウナ場合ニハ、結局其總會ニ出席シタ株主ヲ證人トシテ喚問ヲシテ如何ナル議事ガアツタカト云フコトヲ明ニシテ、其權利關係ヲ確定スルコト云フコトニナル以外ニハ、方法ハナイト思フノデアリマスガ、勿論左様デアラウト思ヒマスガ、如何デアリマス

○大森政府委員 御説ノ通りデアリマス、其株主ノ證明等ニ付テ規定ヲシタラドウカト云フ議モアリマシタケレドモ、サウナルト、大分規定ガ錯雜ニナリマスルカラ、ソレヲ省キマシタ、隨テ其結果ハ只今御示シノ通りニ相成ルコトト存ジテ居リマス

○一松委員 斯ウ云フ時ニハ正當ノ理由ナクシテ署名ヲ拒ンダトカ、シナカッタトカ云フ時分ニハ、何カ制裁ヲ設ケテ、斯ノ如キ紛擾ヲヨリ少カラシムルヤウナ方法ヲ採ルコトハ必要デハナイデアリマセウカ、其邊ハ如何デアリマス

○大森政府委員 御趣旨ニ對シマシテハ不十分デアルカハ知レマセスケレドモ、第四百九十八條ノ第十九號ニ制裁ヲ置イテ居ルノデアリマス、ソレハ議事録其他ノ書面デアリマスガ、本文ニ關スル限りニ於キマシテハ、議事録ニ記載スベキ事項ヲ記載セス又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ、先ヅ之ニ

當リマスル範圍内ニ於キマシテハ罰則ノ制裁ガアル譯デアリマス、ソレカラ尙ホ第二十號モ之ニ關聯ヲ致シマシテ、ソレヲ備ヘ置カザルトキガヤハリ制裁ノ理由ニナツテ居リマス、第十九及第二十デアリマス

○一松委員 宜シウゴザイマス

○仲井間委員長代理 ソレデハ第二款ノ方ヘ進ミマシテ、取締役ノ方デ一ツ説明ヲ御願致シマス——大森政府委員

○大森政府委員 第二款取締役ニ付テ順次申述ベテ參リマス、先ヅ第二百五十四條ノ第一項デアリマス、是ハ屢、申述ベタ所デアリマスガ、此案デハ、取締役ハ株主タルコトヲ必要トシナイコトニナツテ居ルノデアリマス、即チ取締役ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任スレバ、ソレデ宜イノデアリマシテ、株主以外ノ者ヲモ取締役ニ迎ヘル途ヲ開イタノデアリマス、是ハ御承知ノ通りニ現行規定ハ佛蘭西主義ト申シマスガ、佛蘭西及ビ一二ノ國ノ例ニ從ヒマシテ、取締役ハ株主デナケレバナラナイト云フコトニナツテ居リマス、然ルニ大多數ノ國ニ於キマシテハソレハ狹キニ失スルモノト認メマシテ、取締役ハ株主タルコトヲ必要トシナイコトニナツテ居リマス、此二ツノ主義ニ付キマシテハ、成程觀念上ハ利害得失ガ考ヘラレル

ノデアリマス、佛蘭西主義ニ致シマスレバ、取締役ハ同時ニ株主デアリマスルカラ、會社内部ノ人デアル、詰リ會社ニ對シテ水臭クナイ、親切ニ仕事ヲスルデアラウト云フコトニナリマス、又其以外ノ主義ニ依リマスルト、廣ク適材ヲ何處カラデモ求メラレルト云フ便利ガアリマス、併シ斯様ナコトハ寧ロ觀念上ノ議論デアリマシテ、即チ空論デアリマシテ、取締役ヲ株主ニ限定シテ居リマスル現行法ノ運用ノ實績ニ微シマスルニ、ソレデハ足りナイノデアリマシテ、隨テ株主外カラ取締役ヲ迎ヘテ來ルト云フ必要ニ迫ラレマシテ、左様ナ場合ニハ其取締役タルベキ人ニ株ヲ貸シマシテ、假想的ニ株主ニ致シマシテ、ソレヲ取締役ニ選任スルト云フコトガ屢、行ハレテ居ルノデアリマス、是ハ明ニ脫法行爲ト言ッテ宜シイノデアラウト思ヒマス、無効デアリマスマイケレドモ、兎ニ角能ク法律ヲ遵奉スル所以デハナイノデアリマス、左様ナコトハ甚ダ面白カラザルコトデアリマスノミナラズ、此假想株主ト會社トノ間ニ、貸シマシタ株式ノ返還等ノ問題ニ付テ、種々五月蠅イ問題ノ生ジタ事例ハ決シテ少クナイノデアリマス、而モ此假想株主ニシテ取締役デアル者ガ——是ハ小サイ問題デアリマスルケレドモ、税金ヲ拂ヒマ

スル場合、自分ハ事實上ハ利益配當ハ取ツテ居ナイノデアリマスルケレドモ、稅務署ノ方ニハ取ツテ居ルヤウニ認メラレルト云フヤウナコトニ付テモ、不便ハアルヤウデアリマス、左様ナ種々ナ關係カラ考ヘマシテ、是等ノ弊害ハ何處カラ生ジテ居ルカト申シマス、株主ニ限リト云フ此制限ニ拘束セラレルカラデアルト思フノデアリマス、ソコデ此案ニ於キマシテハ、左様ナ制限ハ撤廢スベキモノト存ジマス、取締役ハ必シモ株主タルコトヲ必要トシナイモノト致シマシタ、併シ是亦屢、申述ベマスル通りニ、此案ハソレヲ決シテ強制スルモノデハナイノデアリマシテ、會社ガ定款デ以テ取締役ハ必ズ株主タルコトヲ必要トスルノダト云フコトヲ定メテモ宜シイノデアリマス、左様ナ定ハ勿論有效デアリマス、此案ニ於キマシテモ左様ナ定ガ有效デアルト云フコトヲ前提トシテ規定シタモノモアリマス、例ヘバ後ニ申述ベマスルガ、第二百五十九條ノ如キハソレデアリマス、デアリマスルカラ之ヲ實際の見地ニ於テ考ヘテ見マスルト、何等弊害ガナイノデアリマシテ、而モ株主總會ノ選任ノ範圍ヲ廣クシ、其自由ノ限度ヲ大キクシタノデアリマスルカラ、此改正ハ蓋シ當然ノコトデハナイカト存ズルノ

デアリマス、ソレガ即チ第二百五十四條第一項ノ問題デアリマス、次ニ第二百五十八條ノ第二項デアリマスルガ、取締役ガ退任致シマシテモ、取締役ノ所定員數ガ缺ケマスルガ爲ニ、其取締役ガ新取締役ノ就任スルマデ、尙ホ取締役ノ權利義務ヲ持續シテ居ルノデアルト云フノガ第一項デアリマシテ、是ハ現行法ノ通りデアリマス、併シ此場合ニ、一面ニ於キマシテ監査役ナリ其他利害關係人ノ請求ガアリマスルナラバ、一時取締役ノ職務ヲ行フベキ者ヲ選任スル途ヲ拓ク必要モアルノデアリマシテ、斯様ナ特殊ノ請求ガナイ限りハ、在來ノ取締役ガ一時取締役タル職務ヲ持續スルト云フコトモ結構デアリマスルケレドモ、其他ニ第二項ノ如キ選任ノ一ツノ途ヲ拓クコトモ結構デアラウト存ズルノデアリマス、詰リ第二項ニ依リマシテ、職務代行者ヲ選任スル途ヲ開キマシテ、サウシテ職務代行者ヲ設ケタト云フコトニ付テハ、一般ニ公知セシムル必要ガアリマスルカラ、是ハヤハリ登記ヲセシメナケレバナリマセス、其コトヲ第二項ニ規定ヲシタノデアリマス、此登記ノ手續ニ付キマシテハ、全ク新シイ事項デアリマスルカラ現行規定ニハアリマセス、是ハ非訟事件手續法ニソレニ關スル規定ヲ置

ク積リデアリマス、第二百五十九條、是亦現行規定ニ同趣旨ノモノガアルノデアリマスルケレドモ、此案デハ先程申述ベマシタ通りニ、取締役ハ必シモ常ニ株主デナクテ宜イノデアリマスルカラ、此第二百五十九條ノ供託ノ問題ヲ生ジマスルノハ、定款デ取締役ガ必ズ株主デアッテ、而モ其株主ノ或ル一定數以上ノ株式ヲ持ッテ居ナケレバナラナイト云フコトヲ定メタ場合、及ビ定款ニ若シ取締役ガ株主デアルナラバ、ソレハ一定以上ノ株式ヲ持ッテ居ナケレバナラナイト云フコトヲ定メタ場合ニナッテ來ル譯デアリマス、次ニ第二百六十一條デアリマスルガ、是ハ取締役ノ代表ニ付テノ規定デアリマシテ、現行法ト同ジク原則ハ各自代表即チ單獨代表デアリマス、其他ニ共同代表ノ定ヲモ認メマスルシ、又特定代表ノ定ヲモ認メマスシ、ソレハ現行規定ト同様デアリマス、唯現行規定ニナイ所ヲ一點補充シタノデアリマス、ソレハヤハリ第二項ノ中デアリマスガ、定款ノ規定ニ基イテ取締役ノ五選ヲ以テ代表取締役ヲ定メルコトヲ妨ガナイト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、定款ニ取締役ノ五選ニ依リ代表者決定ノ定ガアリマスルナラバ、其定ハ固ヨリ有效デアルト云フコトヲ明ニシタノデアリマス、

御承知ノ通りニ現行規定ニソレガ無イモノデ

ス

アリマスルカラ、此五選ガ有效デアルカ無

〔仲井間委員長代理退席、委員長著席〕

効デアアルカト云フコトハ屢、問題ニナリマシ

次ニ第二百六十四條デアリマスガ、是ハ御

テ、而モ尙ホ實際ニハ解決ノ出来テ居ナイ

承知ノ競争業禁止ノ規定デアリマシテ、其

問題デアリマス、之ヲ法規デ明確ニシタノ

第一項ニ、詰リ前ニ申述ベマシタ通りニ、

ガ即チ此規定デアリマス、次ニ第二百六十

他ノ會社ノ取締役ニナレナイト云フ一ツノ

二條デアリマスルガ、是亦新設ノ規定デア

コトヲ加ヘタ次第デアリマス、次ニ第二百

リマシテ、今日ノ時弊ニ對スル規定デアリ

六十七條デアリマスガ、第一項ハ現行規定

マス、御承知ノ通りニ社長、副社長、専務

ニモアルノデアリマシテ、株主總會デ取

取締役、常務取締役ト言ツタヤウナ名前ヲ

締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ、

付ケテ居リナガラ、實際其取締役ニ代表權

決議致シマシタ際ニ、會社ハ決議ノ日カラ

ガ無イト云フ事例ハ必シモ少クナイノデア

一箇月以内ニ之ヲ提起シナケレバナラス、

リマス、吾々ノ常識カラ申シマスルト、社

サウナッテ居リマシテ、是ハ現行規定ト變リ

長ト言ツタリ、副社長ト言ツタリ、或ハ専務

ハナイノデアリマス、然ルニ第二項ハ新設

ト言ヒ、或ハ常務ト言ヒ、斯様な場合ニハ

ノ規定デアリマシテ、斯様な訴ニ付テハ株

必ズヤ其取締役ガ代表權ヲ持ッテ居ルデア

主總會ノ決議ガナケレバ取下ナリ、和解ナ

ラウ、代表權ヲ持ッテ居レバコソ、斯様な名

リ、又ハ請求ノ拋棄ガ出来ナイト云フコト

前ヲ付ケテ居ルノデアラウト思フノデアリ

ヲ明ニ致シマシテ、株主總會ノ決定スル所

マスガ、事實ハソレト正反對デ、名前ハ立

ニ從ッテ訴ヲ提起シタノデアリマスカラ、之ヲ

派デアルケレドモ、實質ハ一向詰ラナイ、

勝手ニ取下ゲタリ、和解シタリ、請求ノ拋

斯ウ云フコトガ有リ得ルノデアリマス、左

棄ヲシタリ致シマスレバ、株主總會ノ意思

様ナ場合ニ於テハ、第三者ガ不測ノ損害ヲ

ニ反スルコト固ヨリ大ナルモノガアルノデ

被ル譯デアリマスルカラ、左様な場合ニハ

アリマス、デアリマスカラ、總會ノ決議ニ

其者ガ假令代表權ヲ有シナイ場合デモ、善

依ルニ非ザレバ是等ノ事ガ出来ナイト云フ

意ノ第三者ニ對シテ代表權有ルモノトシテ

責ヲ負フト云フコトヲ明ニシタノデアリマ

次ニ第二百六十八條デアリマスガ、是亦同

趣旨ノ規定ハ現行法ニアリマスケレドモ、

御注意ヲ御願致シマスノハ、第一項ノ中デ

アリマシテ、是ハ少數株主權行使ニ關スル

規定デアリマスノデ、會日ノ三月前ヨリ引

續キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有ス

ル株主斯様ニ少數株主權行使ノ資格ヲ限定

致シマシタ、是亦、先程申上ゲマシタ通り、

連ニ株主ニナッテ、斯様な權利ヲ行使スル、

或ハ又株主ヲ特集メテ斯様な權利ヲ行使ス

ルト云フ點ニ、在來少數株主權行使ニ關ス

ル弊害ガアツタノデアリマス、甚シキニ至

リマシテハ、會社荒シ、恐喝ノ爲ニヤル

ト云フコトニモ立至ツタノデアリマス、デア

リマスカラ一定期間株主デアル者デナケ

レバ、此權利ノ行使ガ出来ナイト云フヤ

ウニ致シマシタ、ソレガ一項ノ中ノ改正

デアリマス、ソレカラ同條ノ第三項デアリ

マスガ、是ハ先程申述ベマシタ通り、取下、

和解、請求ノ拋棄ニ對スル制限デアリマシ

テ、茲ニ其趣旨ヲ繰返シ申述ベルニ及バナ

イカト存ズルノデアリマス、次ハ第二百七

十條デアリマス、取締役ヲ選任スル其選任

決議ガ無効デアル、或ハ其決議ヲ取消シタ

イト云フ訴ノ提起ガアリマシタ場合、裁判

デ取締役ノ職務ノ執行ヲ停止シタリ、又其

代行者ノ選任ヲ命ズルコトガ出来ルト云フ

コトヲ明ニ致シマシタ、是ハ現行規定ノ下

ニ於テモ出来ナクハナイト思フノデアリマ

ス、即チ單純ナル民事訴訟法上ノ假處分ト

シテ出来ルノデハアリマセウケレドモ、之

ヲヤハリ商法會社編ノ中ニ明記致シマシテ、

サウシテ他ニモ關聯事項ガアリマスカラ、

即チ第二百七十一條等ニモ之ニ關聯スル規

定ガアリマスカラ、其コトヲ明ニスルコト

デ相當アラウト存ジタ次第デアリマス、

次ニ第二百七十一條デアリマスガ、斯様ニ

シテ設ケラレマシタ所ノ職務代行者ノ職務

ノ權限デアリマス、ソレハ會社ノ常務ニ屬

シナイコトハ出来ナイ、會社ノ常務ダケ出

來ルノデアルト云フコトニ致シマシタ、詰

リ現在ノ取締役ノ選任ガ無効ニナルカ、取

消サレルカト云フ問題ニナッテ居ルノデア

リマスカラ、其問題ノ人が今尙ホ——詰リ

判決確定前ハ取締役デアリマス、其間ニ惡

イ事ヲヤラレテハ困ル、危險ナ事ヲサレテ

ハ困ルト云フノデ、代行者ヲ置イタ譯デア

リマス、デアリマスカラ代行者ニハ常務ダ

ケト云フコトニスルノガ正當デアラウト思

フノデアリマス、併シ會社トシテハ已ムヲ

ノ相當重大ナ事モアリマセウ、左様ナ場合ヲ豫想致シマシテ、假處分命令自身ニ權限ノ範圍ヲ定ムルコトモ出來マスルシ、又特ニ斯様ナ定メガナイ場合デモ、管轄裁判所ノ許可ヲ得テ、常務以外ノ仕事ガ出來ルト云フ途ヲ拓イタノデアリマス、次ニ第二百七十二條デアリマス、取締役ノ解任ヲ目的トスル總會ノ招集ヲ請求致シマシタ者ガ、急迫ナル事情ガアルナラ、取締役ノ職務執行ノ停止、ソレカラ職務代行者ノ選任ヲ裁判所ニ請求ガ出來ルト云フ途ヲ拓イタノデアリマス、其趣旨ニ於テ第二百七十條ニ付テ申述ベマシタ所ト大差ハナイト存ズルノデアリマス

○田村委員 只今二百五十四條ノ改正ニ付テ、懇切ナル御説明ガアリマシタノデスガ、尙ホ此點ニ付テ一二御同致シタイト思フノデアリマス、假裝的ニ株主ニシテ重役ヲ選任スルト云フコトガ從來ノ風デアッテ、ソレガマア多少ノ弊害ヲ伴ッテ居ルコトモ事實デアリマセウガ、此株主タルコトヲ要件トシテ居ル爲ニ、一ツノ利益モ從來アッタノデハナイカト思フノデス、ソレハ申ス迄モナク我國ノ色々ナ會社、中央ハ勿論ナノデスガ、地方ナドデモ色々縣廳ヤ何カニ關係ノアル會社ガ非常ニ多イヤウデスガ、此商法

改正案ガ出ルト、地方カラ私共ノ所ニ、重役ガ株主デナクテモ宜イト云フコトニナッテ居ルノハ困ルト云フヤウナコトヲ申シテ來ル者モ、現在ボツ／＼アルノデアリマスガ、ソレハ斯ウ云フコトナノデス、詰リ我國ノ會社ハ大體役所關係ノ仕事ガ多イ、其場合ニ或ハ行政整理ナドヲシテ、其結果此頃世間ニ頻ニ言ハレマス天降リ式ノ重役ヲ拵ヘルト云フヤウナコトガアルト困ル、今私ノ所ニ言ッテ來テ居ルノハ、サウ云フ意味ナノデス、併シソレハ天降リデアッテモ、假裝株主ニ出來ルデハナイカト云フ說モ一方ニアリマスガ、此假裝株主ヲ拵ヘルト云フコトガ、僅ニ逃ゲ得ル一ツノ途ニナッテ居ルノガ實情デアリマス、ト申シマスルノハ、監督ヲ受ケテ居ルトカ、或ハ厄介ニナッテ居ル所ノ縣廳、其他ノ役所カラ整理シタ所ノ役人ノ古手ヲ會社ヘ持ッテ來ル、斯様ニ地方長官等カラ會社ヘ交渉シテ來タ場合ニ、會社ノ欲スル人間デアレバ、直チニ株式ノ假裝讓渡ヲヤッテ、株主トシテノ要件ヲ拵ヘテ取締役ニ選任スルノデスガ、ソレハ會社ノ方デ好ム人、若クハ差支ナイ程度ニ考ヘル人ノ場合デアリマス、所ガ反對ニドウモア、云フ人ガ來テ吳レテハ困ルト會社ノ方デ考ヘル場合デモ、ドウモ世話ニ

ナッテ居リ、監督ヲ受ケテ居ル以上、ハッキリ斷ハレナイト云フ非常ニ弱イ立場ニアルノデス、是ハ大森サンナド一寸御考ヘニナッタコトガナイカモ知レナイヤウナ實情デアリマスガ、其弱イ立場ニアル會社側ニ取ッテ、其場合ノ逃ゲ途ハ、折角ノ御言葉デスカラ重役ニシタイノデスガ、株主デナケレバ工合ガ悪い、其株主ニスル爲ノ株式ヲ讓ル餘裕ガアリマセスト云フコトガ、小サナ會社ナドニ取ッテハ、一ツノ逃ゲ途ニナッテ居ル實情ガアルノデアリマス、サウシテ漸クイヤダト思フ天降リ、押付ケノ重役ヲ斷ッテ居ル、是ガ現實ノ實情デアリマスガ、斯ウ云フ點ニ御考慮ヲ拂ハレマシタカドウカ

○大森政府委員 左様ナ御懸念ハ他ノ方面ヨリモ承ッテ居ルノデアリマス、併シ是亦意見ニ傾クヤウデ恐縮デアリマスガ或ル力ガ會社ヲ壓迫シマシテ、若クハ強制ヲ致シマシテ、會社ノ好マザル取締役ヲ押付ケルト云フコトガアリマスルナラバ、是ハ固ヨリ好マシカラザル所デアリマスガ、左様ナコトガ事實アリ得ルナラバ、現行法ノ下デモ、改正案ノ下デモ同ジコトデアラウト思フノデアリマス、即チ左様ナコトガ若シアリマスルナラバ、左様ナコトニ曝サレマスル危險ハ、現行法ト本案トノ間ニ何等相違ガナ

イダラウト思ヒマス、左様ナコトガアリマスルト云フコトハ、規定ガドウナッテ居ッテモ、押付ケルデアリマセウカラ、事實ハ實際上ノ力ノ問題ニナッテシマヒハシナイカト思フノデアリマス、ソレガ一ツト、又イマ一ツ別ノ問題デアリマスガ、會社ガドウシテモ取締役ニ株主ト云フ資格ヲ持タサナケレバナラスト欲シマスルナラバ、定款ニソレヲ書イテ置ケバ宜イノデアリマス、而モ此法案ガ法律トシテ公布サレマシテモ、實施ノ準備期間ヲ一年ハ置クノデアリマスルカラ、其一年內ニ定款ヲ改正シテ置ケバ、株主以外ノ者ヲ取締役ニスルト云フコトガ無クナルノデアリマスルカラ、ソレ等ノ豫防ト申シマスルカ、對策ハ講ジラレル譯デアリマス、ケレドモ實際其惡イ力ガ強ク入ッテ來ルト云フノナラバ、是ハ對策ヲ講ジテ置イテモ駄目デアアルカモ知レマセス、要ハ其點ニナリマスルト、法律ノ問題ヲ去ッテ別ノ問題ニナリハシナイカト存ジテ居ルノデアリマス

○田村委員 是ハ私ノモ意見ニナルカモ知レマセスガ、極端ナ場合ヲ考ヘレバ、無論今ノ大森サンノ御話ノ通りデアリマスガ、唯一應防グ途ヲ與ヘテ置クト、之ヲ防グト云フコトハ社會ノ實際問題トシテアリ得ル、イ

ヤソナニ防イデカモ強ケレバヤリ得ルノ
デハナイカト云フノデスガ、無理ガ表面化シ
テ來ルトムツカシイ、此表面化スル場合ニ、
表面化シ得ル一ツノ機關トシテ、株主タルヲ
要件トシテ逃ゲ口上ヲ與ヘルコトガ、必要
ダラウト思フノデス、又一方此改正案ノ目
的タル、廣ク人材ヲ求メルト云フコトハ、
現行法デ一向差支ナク行ヘルヤウニ思フノ
デス、ソコデ此現行法ヲ改正シナケレバナ
ラナクナツテ理由ヲ伺ヒタイ、先程御話ノ假
裝株主ヲ拵ヘタ爲ニ、或ハ其重役ガ死ンデ、
子供ガ相續スル場合ニ爭ヲ起シタトカ云フ
ヤウニ、假裝株主タラシメタ爲ニ——詰リ
現行法ノ重役ヲ拵ヘル爲ニ起キテ居ル紛議
或ハ弊害、ソレヲ此際伺ヘバ結構デス

○大森政府委員 今御尋ニナリマシタヤウ
ナ紛議ハ、私共ノ經驗ニ於テモ決シテ少ク
ハナイノデアリマス、先ヅ能ク起リマス問
題ハ、株式返還ノ問題デアリマス、或ハ株主
名義書換ト云フ形デ起ルコトモアリマス、
或ハ又株主タル地位ノ確認ト云フコトガ起リ
マスガ、左様ナ訴訟モ決シテ少クアリマセ
ヌシ、訴訟ニナラナイマデモ斯様ナ紛糾ガ
多クアッタト云フコトハ、私共慥ニ承知シテ
居リマス、而モ會社トシテハ、兎ニ角無理ナ
脱法ナコトヲ頼ンダノデアリマスカラ、

餘程弱イ立場ニアリマス、押切ッテ返還ノ請
求ガ出來ナイト云フコトモアリ得ルノデア
リマスカラ、實際現レマシタ爭ヒ以上ニ紛爭ノ
數ハ多イダラウト思ヒマス、尙ホ先程御述
ニナリマシタノハ、兎ニ角外カラノ壓力ヲ
豫防スルノニハ、株主デアッタ方ガ宜イト承
リマシタガ、御尤デアリマス、併シ現行法
デハ御承知ノ通りニ、ドノ會社モ株主デナ
ケレバナラスノデアリマスガ、本案ニナリマ
スト、株主ニ限ラウト思フ會社ダケガ定款
ニ左様ナ定メラスルノデアリマスカラ、此
實施準備期間内ニ左様ナ定メヲ爲シテ置キ
マスレバ、其方ガ豫防ノ手段トシテ却テ有
效デハナイカト存ズルノデアリマス

○田村委員 甚ダ失禮ナ申分カモ知レマセ
ヌガ、私ハ其點ハ遺憾ナガラ反對ノ意見ヲ持ッ
テ居リマス、ソレハ會社法デ一般ノ決メ
テ置クト之ヲ利用シ易イノデスガ、會社ガ
定款デ之ヲヤルト云フコトニナルト、如何
ニモ最初カラ會社ノ方ガ積極的ニ豫防線ヲ
張ッタヤウニモ受取レナイデハナイ、弱イ立
場ニ居ル所ノ會社ニサウ云フコトヲ求メルコ
トハ、少シ無理デヤナイカト云フヤウニ考ヘ
マスノデ、其點ハ大森サンノ御高説ニ私ハ承
服シ兼ネルノデアリマス、私モ實ハ脱法ナ
假裝株主ニナツテ經驗ガアリマス、私モナリタク

ナイノデスガ、ヤラサレタコトモアリマス、之
ヲ假ニ萬一子供ガ爭フ場合ニ、ソレハ功績
トシテ貰フ位ガ至當デアッテ、會社ガ之ヲ返
還請求ラスルト云フコトハ、會社ノ方ガ寧
ロ慾張り過ギル、之ヲシモ保護スル必要ハ
ナイト云フ考モシテ居リマス、其外ハ議
論ニナリマスガ、尙ホ一ツ承ッテ置キタイ
ノハ、廣ク人材ヲ求メル、例ヘバ公益的
ナ、製鐵會社トカ、勸銀、興銀ト云フヤウナ
モノニ付テハ、株主ニナツテモ宜シイト云フ
コトヲ單行法ニ依ッテ決メラレテ居ル、而モ
今日社會ノ風潮カラ申シマスルト、是ハ司
法省ハ除外スベキモノト思ヒマスガ、天下
リトカ、所謂官僚風潮ト云フモノガ非常ニ強
イ、ソレデ此官僚風潮ノ強イノヲ阻止シ、
監督ノ立場ニ居ルモノガ被監督會社ニ入ル
ト云フコトハ、瀆職ノ嫌疑モ起ルシ、社會
ノ風潮トシテ面白クナイト云フノデ、電
力案ニ於テハ五年間官吏ガ被監督會社ニ入
レナイコトニナリ、更ニ恩給金庫法案、庶
民金庫法案ニモ同ジヤウナ規定ガ衆議院ノ
修正案トシテ出來タノデアリマスガ、斯ウ
云フヤウナ風潮ノアル場合ニ、商法ガ大キ
ク門戸ヲ開イテ特別法ダケニ委シテ置ケバ
宜イト考ヘルノハ、考ヘ方ニ依ッテハ逆行シ
テ居ルヤウニ見ラレルノデスガ、是等ノ關

係ニ付テドウ云フヤウニ御觀測ニナラレマ
スカ
○大森政府委員 御尤ノ御陳述デアリマシ
タガ、商法ノ方ハ御承知ノ通り、只今御指
摘ニナリマシタ所謂天下リト申シマスカ、
押付ト申シマスルカ、左様ナ事柄ニハ全ク
關係ガナイノデアリマシテ、商事會社ノ一
般の基準トシテ考ヘマスルナラバ、取締役ニ
ハ必ズシモ株主デナクテモ宜イト云フノヲ
以テ進ンデ行クノガ至當デアル、斯様ニ考
ヘタ次第デアリマス、他ノ特殊ノ弊害ニ付
キマシテハ、是ハ特別ニ考ヘナケレバナラ
ヌコトト存ジテ居リマスケレドモ、商法ニ
關スル限りハ、ヤハリ之ヲ以テ進ンデ行ク
ノガ正シイノデアル、又妥當デアル、斯様
ニ存ジテ居ル次第デアリマス

○一松委員 モウ分リ切ッタヤウナコトデ
アリマスガ、二百七十條ノ「取締役ノ選任
決議ノ無効又ハ取消ノ訴ノ提起アリタル場
合ニ於テハ本案ノ管轄裁判所ハ當事者ノ申
立ニ依リ假處分ヲ以テ取締役ノ職務ノ執行
ヲ停止シ又之ヲ代行スル者ヲ選任スルコト
ヲ得」此規定ハ當然必要ノ生ズベキ場合ノ
多キコトハ私共モ認メルノデアリマスガ、
ソレト同時ニ會社荒シガ、往々ニシテ斯ノ
如キ規定ヲ濫用致シマシテ、會社重役ヲ苦

シメ、由ツテ以テ私利私慾ヲ計ラントスル場合ニ於テ、裁判所ヲ利用シテ斯ノ如キ假處分ヲ求メルコトガアルノデアリマス、故ニ斯ノ如キ假處分ヲ許スト云フコトニ付テハ、餘程裁判所ニ於テ慎重ナル態度ヲ以テ臨ンデ裁キマセスト、會社ノ爲ニ計ツタ必要ナル法文ガ、却テ或ル一部野心家ノ爲ニ濫用セラル、コトガアリマスル爲ニ、非常ニ會社ニ迷惑ヲ生ズルコトガアルノデアリマス、故ニ斯ウ云フ假處分ノ申請ヲ致シマスル時ニハ、受訴裁判所ハ餘程注意ヲシテ、之ヲ許可スベキヤ許可スベカラザルヤト云フ點ニ重キヲ置カナケレバナラスト思フノデアアル、ト同時ニ濫リニ斯ノ如キコトヲサセナイト云フ意味ニ於テ、申立ヲ爲スモノニ對シテ相當ノ擔保又ハ保證ヲ提供セシムル必要ガアラウト思フノデアアル、ソコデ民事訴訟法ノ假差押、假處分ノ規定ヲ見マスト、假差押ノ七百四十一條ノ規定ニ依リマスルト、損害ノ爲メ債權者ガ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタル時ハ、裁判所ハ假差押ヲ命ズルコトガ出來ル、又假差押ノ理由ヲ疏明シタ時ト雖モ、裁判所ハ尙ホ保證ヲ立テシメテ假差押ヲ命ズルコトガ出來ル、而シテ此民事訴訟法ノ七百四十一條ノ規定ハ假處分ノ七百五十六條ニ

之ヲ準用セラレテアリマスルカラ、假處分ノ場合ニモ、保證ヲ立テシメ擔保ヲ提供セシムルコトガ出來ルノデアリマスルカラ、此商法ノ二百七十條ノ場合ニ於テモ、左様ナ方法ニ依ルベキモノデアラウト思ウテ居ルノデアリマスルガ、ソレハ其通りデアリマセウカ、之ヲ一ツ伺ツテ置キマス

○大森政府委員 全ク御指摘ノ通りデアリマシテ、民事訴訟法ガ其點ニヤハリ適用ガアルノデアリマス、而シテ特ニ第二百七十一條デ豫想セラレマスル此假處分ノ申立ノ濫用ニ付キマシテハ、只今モ御注意ガアリマシタガ、私共モ十分ニ其點ハ警戒ヲシナケレバナナイト存ジテ居ルノデアリマス、即チ裁判所ガ此假處分ヲ爲スニ當リマシテ、苟モ輕率ナル判斷ヲスルヤウナコトノナイヤウニ、絕對ニ堅ク戒メテ行キタイト云フコトヲ、私共モ考ヘテ居リマス、從來假處分ノ範圍ガ餘リニ廣キニ失シテ、假處分ヲヤッタガ爲ニ、マルデ勝訴ノ判決ヲ得タト同様ノ效果ヲ生ジタト云フコトガ、曾テハアツタノデアリマスルガ、ソレ等ノ痛キ經驗ヲ吾々ハ持ツテ居リマスルカラ、運用ニ當リマシテハ努メテ御趣旨ニ副ヒタイト存ズルノデアリマス

○一松委員 只今ノ御説明ヲ承リマシテ非

常ニ私モ安心シタノデアリマスガ、實ハ大森局長ノ御話ノヤウニ、斯ウ云フヤウナ假處分ヲ致シマシテ、其假處分ヲ得タ結果、得タトシテ自分ガ會社ノ乗取リヲシタカノ如ク、自分モ考ヘ、株主ニモ左様ナ誤解ヲ與ヘシメマシテ、ソレガ爲ニ會社ノ信用ヲ失墜セシメテ、遂ニ會社ノ業務ノ遂行ヲ不可能ナラシメタヤウナ實例ガ随分多イノデアリマス、裁判所ノ御係ノ判事諸公ガサウ云フ點ニ付テ、餘程御經驗ニ當ンデ居ラセラル方デアレバ、左様ナコトニ付テモ深甚ノ注意ヲ拂ハレマスルカラ、弊害ガ少イノデアリマスルガ、ドウモ世間ノ事情ニ往々ニシテ暗イ方ガアリマシテ、申請人ノ申立ヲ直チニ御採用ノ上デ假處分ヲ許シテ、取返シノ出來ナイヤウナ結果ヲ招來スルコトガ往々ニシテアルコトヲ、私承知シテ居リマスルカラ、ドウカ今局長ノ御趣旨ノ如ク、斯ノ如キ法條ガ實施セラル、ト云フ曉ニ至リマシテハ、十分ニ深甚ノ御注意ヲ拂ハレマシテ、且ツ裁判所ニ伺ツテモ餘程注意ヲスベキコトノ御内示ノ手續ヲ御執リ下サルト云フコトヲ、特ニ私ハ御願シテ置クノデアリマス

○大森政府委員 御注意ノ通りニ確ニ取計ヒタイト存ジテ居リマス

○佐竹委員 唯一點二百四十九條ノ關係ヲ承リタイト思ヒマス、決議取消ノ訴ハ相當重大ナ問題デゴザイマシテ、之ガ爲ニ其請求ヲ爲シタル者ニハ相當ノ擔保ヲ供スルヲ要スルト云フコトニナツテ居リマス、而シテ其請求ヲ爲シタル株主ガ取締役又ハ監査役ナル時ハ此ノ限りニ在ラズト斯様ニナツテ居リマス、是ハ現行法ノ百六十三條ノ三ヲ其儘御踏襲ニナツタモノト見ラレマスガ、併シ現行法百六十三條ノ三ニ於ケル斯様ナ但書ヲ設ケマシテモ、別ノ規定ニ於キマシテ、取締役、監査役ガ擔保ヲ供託シナケレバナラヌ規定ガアリマスカラ、其權衡上但書ヲ設ケマシテモ、決シテ不當デハナカラウトハ考ヘマス、所ガ今度ノ改正案ニ於キマシテハ、二百五十九條ニ依リマス定款ヲ以テ取締役ガ株式ヲ監査役ニ供託スベキ場合ヲ定メマシタ以外ノ場合ニ於テハ、全然取締役監査役ハ供託スルコトヲ必要ト致シマセヌ、之ガ爲ニ大變權衡ヲ失スルコトニナリハシナイカト考ヘマスガ、改正案ニ於キマシテ、株主以外ノ者ガ取締役、監査役トナルコトガ出來ルヤウニナリマシタ以上ハ、此現行法百六十三條ノ三モ相當ニ改正ヲ致シマシテ、今度ノ改正案二百四十九條ノ但書ヲ削除致シマスコトガ、適正デハナイ

○大森政府委員 御注意ノ通りニ確ニ取計ヒタイト存ジテ居リマス

イカト考ヘマスガ、如何デゴザイマセウカ
○大森政府委員 御指摘ニナリマシタヤウ

ニ、現行規定デハ取締役ニ株券ノ供託ヲ一
般的ニ命ジテ居リマス、併シ是ハ私共ノ考
ヘマスル範圍内ニ於キマシテハ、取締役ノ資
格確保ノ爲ノモノデアリマシテ、決シテ會
社ニ對スル諸種ノ訴ニ付テ會社ガ被ツタ損
害ノ賠償ノ擔保ト云フモノデハナカラウカ
ト存ジテ居ルノデアリマス、又御承知ノ通
リニ監査役ハ現行法ノ下ニ於テモ左様ナ擔
保ハ提供シテ居ナイノデアリマス、何レニ
致シマシテモ現行法ガ取締役ニ一般的ニ命
ジテ居リマスル擔保ト、此訴訟等ニ關聯ス
ル擔保トハ全ク性質ガ違フヤウニ存ジテ居
リマスカラ、此案ガ取締役ノ資格問題ニ付
テ、現行法ト異ル規定ヲ設ケマシタカラト
云ツテ、今御指摘ノ點ニハ影響ガナイカト存
ジテ居ルノデアリマス、尙ホ他ノ御尋ノ御
趣旨デアリマスガ、此決議取消ノ訴ヲ提起
シタ場合、取締役タルト監査役タルト、或
ハソレ以外ノ株主タルトノ間ニ、何等差等
ヲ設ケナクテモ宜イデハナイカ、斯ウ云フ
御趣旨モアツタヤウニ拜承シタノデアリマ
スルガ、是ハ御尤ニ存ズルノデアリマス、
現行法ハ此二者ヲ分ケテ居リマスルガ、恐
ラクハ其趣旨ハ、取締役、監査役ハ内輪ノ

者デ、之ニ較ベレバ株主ハ稍、内輪ヨリ外ノ
者ダ、斯ウ云フヤウナ頭デ取締役、監査役ニ
對シテハ、此供託ヲ命ジナクテモ宜イト、
斯ウ云フ積リデアツタデアリマセウ、正確ニ
申シマスレバ、取締役、監査役、其他ノ株
主等ニ差等ヲ設ケルト云フコトハ、宜ク
ハナイノデアリマセウケレドモ、先ヅ常識
的ニ考ヘマシテ、此事項ニ關スル關係ニ付
テハ、兩者ヲ分ケテ取扱フコトモ、サシテ
不當デハナイト存ジタノデアリマシテ、其
結果現行法ヲ踏襲シタ次第デアリマス、左
様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

○佐竹委員 今一點二百七十條ノ假處分ノ
關係デゴザイマスガ、民事訴訟法ノ規定ニ
準據スルトノ御説明ヲ戴キマシタガ、現在
ノ民事訴訟法ノ解釋ト致シマシテハ、假處
分ヲスル場合ニ取締役ノ執行ヲ停止シタ場
合ニ、必ズ其職務ヲ今度代行スル他ノ者ヲ
選任スルコトヲ要スルト云ツタヤウナ趣旨
ノ先例ガアツタヤウデゴザイマス、一步資格
ヲ失ツタナラバ、其失フ瞬間ニ又其職務ヲ代
行スベキ者ヲ拵ヘテ置カナケレバ、首尾一
貫シナイト思フ、特ニ親權喪失等ノ場合ニ
於キマシテハ、ハッキリトシタ判例ガアル
ヤウデゴザイマス、所ガ商法デ取締役ノ職務
ヲ停止シ又ハ代行スル者ヲ選任スルコト

ヲ得ト「又ハ」ト云フ文字ヲ以テ區分致シマ
シタ爲ニ、此商法ハ從來行ハレテ居ル民訴
ト別箇ノ見解ヲ取ツテ居ルノデヤナイカト
云フ氣持ガ致シマスガ、如何デゴザイマセ
ウカ

○大森政府委員 此取締役ノ職務停止ニ付
テノ今日ノ民事訴訟法運用ノ下ニ於ケル實
例ヲ、御舉ゲニナツタヤウデアリマスルガ、
御言葉ヲ返スヤウデ甚ダ恐入リマスガ、私
共ハ必シモ左様ニ決ツテ居ル譯デナイト存
ズルノデアリマス、詰リ取締役全部ノ、若
クハ主要ナル地位ニ在ル取締役ノ職務ヲ停
止致シマスルナラバ、是ハ同時ニ職務代行
者ヲ拵ヘマセスケレバ、會社ノ業務ニ當然
支障ヲ來シマセウ、併シ例ヘバ五人取締役ガ
居リマシテ、五人ガ業務ヲ執行シテ居リマ
スル場合ニ、其中ノ甲ダケノ職務ヲ停止シ
テモ他ニ乙、丙、丁、戊ガ居ルノデアリマ
スルカラ、會社ノ業務執行ニ支障ガナイト
云フ場合ニハ、必シモ常ニ當然代行者ヲ決
メテハ居ナイノデアリマス、デアリマスル
カラ、今日ノ實際ニ於テ停止ト代行者ノ指
定トハ、必然的ニ不可分ニハナツテ居ナイヤ
ウニ存ズルノデアリマス、而モ此第二百七
十條ノ第一項ニ於テモ、之ヲ不可分のニ同
時ニヤツテモ宜イコトハ、只今モ御述ノ通り

デアリマス、唯停止ハ停止ダケノ場合モア
リ得マスルカラ、「又ハ」ト云フ規定デ以テ
之ヲ書イタ次第デアリマス

○一松委員 十二時モ過ギマシタカラ、此
邊デ散會シテハ如何デセウカ

○野村委員長 ソレデハ今日ハ是ダケニシ
テ置キマス、明後日ハ午前十時カラ開キマ
ス

午後零時十三分散會

昭和十三年三月十四日印刷

昭和十三年三月十四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局